

おはよう！
ごきげんよう！

ACT3 桜祭り

おはよーって
言っても
もう11時だけどね

あっ先駆方
待ちました？

いやオレらも
今来たところ

先駆方
筋肉痛は
いかがですか？

やっとなぐれて
きたよ

オレも…

それにしても
人出が凄いな

最近じゃ観光雑誌に
載ったりしてるし
結構有名みたい
なんですすよー

夜参道の
賑わいも
いいですよ

お土産も
たくさん
あるんですよ！

……ああ



そして一番の
名所はこちらっ！

本殿まで約三百段の
階段沿いに
桜の木がズラァッと
生えてるの！

出口専用

あまちゃん……



まあまあ
ゆっくりで
いいから
行きましょー

会わせたい人は
そこにいるんで！

助神してくれ……



俺達速い筋肉痛に
苛まれたばかり
だよ？！

いや……
成島神社って
聞いた時から
覚悟はしてたけど
改めてみると
キツツいな……

トレーニング場と
しても
最高ですよな！

やだよ







大団だった

備は吉

大吉でしたあ

でもおみくじって
神様からの一言の方が
大事って言いますよ

えーと



げえー



「道理に合わない
ことで悪いことに
巻き込まれます
神様を信じて
心清らかにしなさい」

ええ…？何か
良くない事が
起きるの…？

まーまー
あくまで
気を付けなさいと
いう意味だと
思いますよー



うーん
結んだ方が
いいかな！

ザッ
ザッ

あ

あつた
あつた

ん…あれ
そばにいる
神社の人！

おみく





瑠花師が！

重宝強いのは
知ってたけど

丁度一年くらい
前かな
チッココーさんが
うちに相談に
来てね

カナちゃんとは
その時からの
付き合いなの

はいっ！
また泊まりに
来てくださいねっ



そして藤原さんと
伊野原くんとは
生徒会の交流会で
知り合ってたね

伊野原くんとは
冬の合同練習
ボランティア
以来かしら

そうですね
それにしても
お二人とも
相変わらず
仲良さそうで

！株

ん？

待って

どういう事？

ん？

二人とも

相変わらず

仲良さそう

って



！あれハル
知らない？

成島さんと会長は
生徒会の交流会が
きっかけで
付き合い合ってるんだよ

結構有名な
話だけだな！







「言わなくてよかったの!」

「ん?」

「本画のこと」



「僕達本画は付き合っていないって」

「……」



「天野君、随分と落ち込んでいたけど」

「どこかで漏れたら意味ないでしょ、違っかけ対策なんだし」



「それもそうか」



「それにしても君だったんだね、あの種原さんのシステム開発に関与していたの?」

「エッ! 崎原くんもアレ知ってたの?」



「天野君連と一緒に見に行った、その様子だと僕には黙っておきたかったのかな」



「……ごめん、言ったら絶対止められると……」



「……そうだね、あんな危険なもの僕は正直反対だよ」

「……」



今日の仕事が
終わってからは
いいからちゃんと
詳しく聞かせてね

あ……



うちの生徒を
巻き込んだ
責任は重いよ



君には君の考えが
あるんだろけれど



わ……
解ってるわよ

返事は？

ずーん……



一番
めんどくさい
人にバシ
てしまった……



しばらく
そんなに交流が
無かったんだろ？
それにしても悪い
落ち込みようだな

もー
そろそろ
立ち直って
くださいよ！

ずーん……



小さい頃から知ってる近所の大好きなお姉ちゃんって感じだからさー

他の人の特別になっただって思うと悲しい

相手が会長じゃ分が悪いよ

美男王子セアリニゲ

言わないで……

あの頃はさあこの山一帯が遊び場だったんだよ

山の頂とかも通っかけ回してさあ……

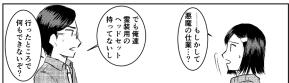
楽しかったなあ……

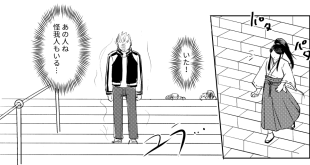
……回顧に入ってる……

全然先に進まねえじゃねーか
さっさと歩けやマジでうせえ

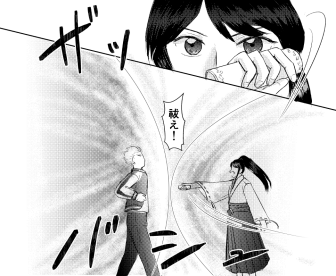
わーまよー



















ハル
お願いだから
危ないことは
しないでね

きゅっ
きゅっ

ママが
居なくなつて
貴方まで
居なくなつたら
お母さん……

……



お……
大げさだなあ！
普通に暮らして
いればそんなに
危ない目には
遭わないよ

大丈夫だって！

そうじゃない
世の中になつて
来てるから
心配なのよ

……



理花

編纂くん
迎えに来て
くれたんだ

……

巫女服のまま
行ったでしょ
おばさんに頼まれて
着替え持ってきた

そのカッコで
家まで
帰るつもり？

はい
そうだった



—どうだった
警察の方は

もしほんと
ダメね
信じてくれない

見えないものを
信じろって
言うのは
限界あるよ

でもそこを
何とかしないと
協力を得られない
じゃない

だから
それは—

園羅さんの
現実的には
限界なのよ

お星の質問の
回答だけだね

園羅くん

私が園羅さんの
システム開発に
協力したのは

このままだと
園羅からの
侵略者に
数で負けると
思ったからよ

どんなに力が
あったって
一人で捌ける数は
限られるでしょ



綾羅くんが
心配したり
内心快く思っ
ていないことも
分かる

けど…事態は
一刻を争うの
のんびりしたこと
言ってられない



どんな手段を
使っても
やらないといけない
綾羅なのよ

だからといって
一般人を巻き込むのは
本来転倒じゃないのか

あの三人に
何かあったら
どうするつもり?



それはっ…

ぐう

